

## 近畿中国森林管理局島根森林管理署における民間競争入札の入札結果等について

公共サービス改革基本方針（平成29年7月閣議決定）を踏まえ、平成30年度の国有林の間伐等事業については、第208回官民競争入札等監理委員会（平成30年2月23日開催）了承の実施要項に基づき、24箇所を対象に入札を実施してきたところ。

このうち、近畿中国森林管理局島根森林管理署の実施箇所に係る入札物件において、再度の入札においても不落となったことから、以下のとおり実施予定者を特定することとした。

## 1 経緯

## (1) 入札手続について

初回及び再度の公告及び入札手続に係る日程は下表のとおり。

区 分	初回入札	再度入札
入札公告	平成30年3月20日	平成30年6月8日
現場説明	平成30年4月17日 平成30年4月24日	平成30年6月19日 平成30年6月22日
企画提案書等提出期限	平成30年5月2日	平成30年7月3日
競争参加資格確認兼企画提案採否通知	平成30年5月15日	平成30年7月18日
開札	平成30年6月1日	平成30年8月1日

## (2) 入札結果について

- ① 初回公告の現場説明会には1者が参加した。当該者から企画提案書の提出があり、必須項目を満たしていたため、開札したところ、入札価格が予定価格を上回り不落となった。直ちに再入札を行ったが、不落となった。
- ② 再度公告の現地説明会には参加者はいなかったが、初回公告と同じ1者から企画提案書の提出があり、必須項目を満たしていたため、開札したところ、入札価格が予定価格を上回り不落となった。直ちに再入札を行ったが、不落となった。

区 分	初回公告による入札	再度公告による入札
入札説明書の交付	HPによる対応	HPによる対応
現場説明会参加	1者	0者
企画提案書等の提出	1者	1者
入札開札	1者【不落】	1者【不落】
再入札開札	1者【不落】	1者【不落】

## 2 聞き取り結果と再度公告の対応について

(1) 初回公告による入札終了後に、応札者から入札価格の考え方について聴取したところ、次のとおりであり、本事業を通じて損失を生じる可能性がないように経費を積算した結果、予定価格を上回ったと考えられる。

- ・ 初年度の事業期間が短い中で、冬季には作業期間が限定されること等を想定し、作業人員を多く見込んだ
- ・ 伐倒作業や路網作設に影響する灌木、岩石地等が多いことを考慮し、コストを多く見込んだ

なお、再度公告による入札後の聞き取りでは、上記に加え、複数年契約による経費の節減を見込んでいなかった旨の回答が得られた。

聞き取りの具体的内容は、別紙のとおり。

(2) 上記については、実施箇所の面積や集造材材積の数量など、実施要項に定める事項の見直しにより改善できるものでなく、さらに、予定価格に関しても、現地調査を踏まえ、標準的な作業システム及び森林作業道の線形、延長距離等により行っていることから、特段の見直しは行わず、実施要項の5の(3)に基づき再度公告による入札を実施したところである。

## 3 実施者の特定等について

(1) 再度公告による入札においても不落となったことから、実施要項5の(3)に基づき当該事業の実施方法について検討したところ以下のとおり。

- ① 再々度の公告による入札による実施予定者の特定については、初年度の事業期間を確保できなくなることから困難
- ② 事業の中止については、当該箇所より集造材される丸太の供給について、今年度の計画に計上しており、間伐等事業の実行等を通じて木材の安定供給を推進する国有林野事業として、全く不実行となると問題

(2) このため、再度公告による入札参加者（1者）と協議を行い実施予定者の特定を行うこととし、調整を図った結果、予定価格の範囲内で実施要項等と同様の条件で事業を実施できることが確認できたことから、実施者として特定することとしたところである。

(3) なお、本件の応札者からの聞き取りでは、公告から入札までの期間の短縮について意見が出ていることを踏まえ、期間設定については、これまでに行ってきた見直しの内容、本年度実施箇所の状況の把握及び分析とあわせて、次期実施要項等の策定に向け検討していくものと考えている。

(別紙)

応札者からの聴取の概要  
(応札額について)

近畿中国森林管理局島根森林管理署において実施した民間競争入札に基づく国有林の間伐等事業の応札者からの聞き取りによる。

応札等算出にあたっての考え方等	回答者
<p>① 初年度の事業期間が短く、かつ積雪で冬期間の作業が不可能となることも想定される中で、集造材材積について契約額の2割を超える相当量を確保するため、通常より多くの作業人員の確保が必要となり人件費を多く見込んだ。</p> <p>② 植付の効率性や伐倒の安全性を高めるため、灌木等下層植生の処理を含めた伐倒作業に係る人件費を多く見込んだ。</p> <p>③ 伐倒集材区域内の岩石地を避ける線形を想定し、路網整備のコストを多く見込んだ。</p> <p>④ 複数年の物件への入札が初めてであったこともあり、年度をまたぐことによるコストの節減を十分に見込んでいなかった。</p>	A 社

注) ①～③は、初回公告及び再度公告による入札後に聴取した内容。④は、再度公告による入札後に追加で聴取した内容。